

◆奨励賞◆

変わらない優しさ

江陽中学校 三年

川口 稔敦

私は、失敗することがとてもこわいです。がんばつてもうまくいかないとき、「なんでこんなこと…」と言われると心の中に重い気持ちがたまつ

ていきます。何度もそんな言葉を聞いているうちに、「私ってダメなんじやないか」と思うようになりました。ちょっとしたことでもミスするのがこわくて、自分のやることすべてに自信がなくなつていきました。

でも、学校に行くと少し気持ちが変わります。友だちとふざけて笑い合つたり、何でもない会話をしたりすると、心が少し軽くなつて、「まあいいか」と思えるのです。授業中に目が合つてニヤッとされたり、昼休みにくだらない話をしたり。そんな時間があるからこそ、私は毎日学校に通うことができているのだと思います。

中でも一番うれしいのは、私のことを特別扱いせず、いつも通りに接してくれることです。どんなに私が落ち込んでいても、まるでそれに気付いてないかのように自然に話しかけてくれる友達がいます。「昨日さあのアイドルがー」とか「体育ダル」とか、そんなクスッと笑つてしまふような何気ない一言が私にとつてはとても大きな力になつています。

何も言わなくとも、変わらずそばにいてくれる人がいる。それだけで、「私はここにいていいんだ」と思えるようになりました。特別な言葉なんていらなくて、ふだん通りの笑顔や自然な態度が、私の心をふわっと軽く

してくれるのです。

家では、自分の努力がうまく伝わらず、落ち込むこともあります。夜ひとりで「私ってなんでこんなにダメなんだろう」と思つてしまふ日もあります。でもそんなときでも、学校で笑つてくれる人がいて、話をしてくれる友達がいる。それが私にとってとても心強いことだと気付きました。

これからも私は、たくさん失敗すると思います。でもそれで全部がダメになるわけじゃありません。

たとえ誰かに否定されても、自分まで自分を否定しないようにしたいと思っています。

大切な友だちと笑いながら、自分のペースで少しずつ前に進んでいきます。失敗しても、私は私。変わらない優しさに囲まれて、私は私らしく生きていくこうと思います。